



施策	33111	自然地の保全(環境)
----	-------	------------

### 5 前年度の二次評価結果への対応状況

(1)前年度の二次評価内容	評価評語	【 改善 】
<p>・区民に対して施策の意義について積極的に啓発活動を行い、施策目標達成にむけ、さらなる創意工夫を行うこと。</p> <p>・区民がエコライフを実践し実現するために、この施策と事務事業がどのように寄与するのか、具体的な施策・事業の方向性を検討すること。</p>		
(2)二次評価結果への対応状況や成果向上のために取り組んできたこと	対応状況	【 対応済 】
<p>・流域5市区(小平市、西東京市、北区、練馬区、板橋区)の関係自治体で構成される石神井川流域環境協議会を通じて事業報告書を作成するとともに、小冊子「石神井川の散策マップ」等を作成し、区民まつりや農業まつり等で配布するなど区民への普及啓発に努めた。</p> <p>・ホテル生態環境館及び熱帯環境植物館の事業を、区民への自然環境に対する関心の向上、体験・ふれあいの場としての普及啓発事業とした。</p>		

### 6 一次評価【所管課長による評価】

(1)施策指標の分析(区民にとってどのような成果があったか)	評価評語	【 現状維持 】
<p>達成率は平成19年度53.6%、21年度125.0%、22年度187.5%、23年度166.7%である。年々改善の傾向を示しており、計画を上回っている状況である。また、ホテル生態環境館の来館者数については、横ばいの傾向にある。また、熱帯環境植物館については、昨年度と比較して10.9%の来館者数増となった。なお、ホテル生態環境館及び熱帯植物館で行ったアンケートでは、それぞれの集計で「ホテル夜間特別公開実施時」:91.1%が「大変よかった」「族館・温室・企画展示とサービス全般については」:86.4%が「大変よい」と「よい」となった。</p>		
(2)手段(事務事業)の必要妥当性・有効性	評価評語	【 改善 】
<p>板橋区環境基本計画(第二次)に基づく、継続的な石神井川の水質調査や水生生物調査などは重要な施策であるが、その調査結果や区民の係り方などを、より一層多くの区民へ周知できるよう創意工夫が必要である。また、熱帯植物館及びホテル生態環境館については、都市化が進むにつれて、「緑と水」にふれる機会が減ってきている。自然にふれ、それを実際に体験できる施設が身近にあることは、区民にとって大きな財産となっている。板橋区環境基本計画(第二次)でも「自然とふれあう機会の創出」を目標のひとつと掲げているが、都会で自然体験できる機会を提供できる施設の果たす役割は大きくなっている。</p>		
(3)役割分担の妥当性	評価評語	【 現状維持 】
<p>石神井川の維持管理は特別区における東京都の事務処理の特例に関する条例により区が行なっている。区民が親しめる河川の環境調査を実施することは、緑と水を保全し創出していくうえで不可欠な施策である。また、熱帯環境植物館やホテル生態環境館では、運営主体は区であるが、区民・町会・自治会・NPOなどの主体の協力・協働も大きな力となっている。ガイドツアーや夜間特別公開に区民やボランティアができるだけ多くかかわることで、区民全体の環境意識向上が効率的に進むなど、事業効果を一層向上させることができる。</p>		
(4)今後の展開方針、課題・懸案事項		
<p>自然の保全、向上をさせていくには地道な取り組みが求められる。区内における水環境を把握するため定期的な水環境調査を行ない、区民の生活を守っていかねばならない。関係部署と積極的に連携するとともに、区民への普及・啓発事業をさらに強化し、施策の実施方法について改善に努める。</p>		
取り組みの対応期限	平成	25 年 3 月

### 7 外部評価【行政評価委員会による評価】

評価評語	【 改善 】
<p>【成果の視点】施策指標に示されたBODについては、石神井川のみでは区全体の水環境を把握することにはつながらないことから、その他の河川や水辺の数値を一次評価の欄で明記し、その成果を分析すること。ホテル生態環境館や熱帯環境植物館の運営は、環境教育の場としての色合いが強いが、どの程度教育や啓発が施策目標の達成に寄与しているか疑問である。施策目標に対する環境教育の位置づけを明らかにした上で、事務事業のあり方を検討されたい。</p>	

### 8 二次評価【区の最終評価】

評価評語	【 改善 】
<p>外部評価での指摘は、板橋区において快適な自然環境を創造していくにあたり、手段として事務事業の有効性を疑問視されたことによる。事務事業の構成について、抜本的に見直すこと。</p>	

板橋区事務事業評価表(平成24年度)

No	165	事務事業名	雨水の浸透と利用					
施策コード	33111	施策名	自然地の保全(環境)					
計画事業番号	048	ナンバーワン	安心・安全ナンバーワン	いたばし力UP 緑と環境力				
所管課係	資源環境部 環境課 環境調査係	記入者	江原	電話 3579-2593				
予算科目コード(款・項・目・細目・細々目)	05-01-02-003-02							
I. 事務事業の概要		(開始年度: 平成 4 年度)						
区内の民間住宅等(*1)に、雨水浸透ますと雨水貯留槽の設置(*2)を促進し、雨水を有効利用するとともに地下水の涵養、湧水の保全(*3)を図る。								
(*1=「誰・何に対して(対象)」、*2=「どんな方法で(活動)」、*3=「どのようにしたいか(成果)」)								
II. 事務事業の目標と実績								
		単位	H22年度 実績	H23年度 計画 実績	H24年度 計画	H27年度 目標		
対象	①	区内の一戸建て住宅数	軒	47,300	47,300	47,300		
	②							
事業指標	①	雨水浸透ます設置件数	基	7	30	15	30	30
	②	雨水浸透ます設置件数(H17以降累計)	基	165	480	180	510	600
	③	雨水貯留タンク設置件数	個	5	10	29	10	10
	④	雨水貯留タンク設置件数(H17以降累計)	個	45	90	74	100	130
事務 量 及 び 所 要 経 費		正規職員数	人	0.5	0.5	0.5	0.5	財源名称
		再任用・再雇用職員	人					
		非常勤職員等	延日数					
	a	人件費換算額	千円	3,412	3,378	3,378	3,355	
	b	人件費を除く事業費	千円	430	1,632	1,164	1,076	
	c	総事業費(計)	千円	3,842	5,010	4,542	4,431	
	d	財 国・都支出金等	千円				234	
	e	源 利用者負担	千円					
	差引	一般財源(総)	千円	3,842	5,010	4,542	4,197	
	コスト 指標	設置数1基(個)あたり	総経費(円)	320,167	125,250	103,228	110,775	
		区経費(円)	320,167	125,250	103,228	104,925		
平成23年度事業量			平成23年度事業経費					
(1)No.1プラン上								
浸透ます設置 30基 雨水貯留タンク 10個			1,632千円 委託料1,407千円(雨水浸透ます) 補助金225千円(雨水貯留タンク)					
(2)当初予算上※補正があった場合は、【補正後】として記入								
浸透ます設置 30基 雨水貯留タンク 38個【補正後】			2,042千円【補正後】 委託料1,407千円(雨水浸透ます) 補助金635千円(雨水貯留タンク)【補正後】					
(3)実績								
浸透ます設置 15基 雨水貯留タンク 29個			1,164千円 委託料734千円(雨水浸透ます) 補助金430千円(雨水貯留タンク)					
進捗状況・所管課の評価・今後の予定 ( 月 日現在)								

No	165	事務事業名	雨水の浸透と利用【048】
----	-----	-------	---------------

事業量・経費増減の理由等(平成23年度実績と平成24年度予算との比較)
平成23年度実績: 雨水浸透ます(15基)、雨水貯留タンク(29個)、事業費(1,164千円)
平成24年度計画: 雨水浸透ます(30基)、雨水貯留タンク(10個)、事業費(1,076千円)

### Ⅲ 事務事業を取り巻く環境

区民意見等の状況(アンケート調査や個別要望等)、類似・関連事業や他自治体との比較など
湧水の保全や地下水の涵養など、雨水の有効利用に対する区民の重要度意識は高い。平成19年4月には地下水と湧水を保全する条例を制定し、区民との協働による水循環の改善に取り組んでいる。平成20年3月に赤塚不動の滝と周辺地域、志村城山公園と周辺地域を、平成22年4月には赤塚城址及び区立赤塚植物園周辺地域を湧水保全地域に指定した。また、雨水浸透ますや貯留タンクについて23区中、17区が助成制度を実施している。

### Ⅳ 前年度の二次評価結果への対応状況

1 前年度の二次評価内容	評価評語	改善	対応状況	対応済
雨水浸透ます、雨水貯留タンクいずれもNo.1プランに掲げる目標量に達していないため、成果向上に向け、実施方法のより一層の改善に早急に取り組むこと。				
2 前年9月(当初予算要求時)時点での、二次評価結果への対応状況				
平成24年度から雨水浸透ますの助成は、委託方式から補助方式へ変更する。				
3 現時点での、前年度二次評価結果への対応状況や成果向上のために取り組んできたこと				
これまで指名競争入札により決定された一業者が、雨水浸透ますの設置業務を委託されて実施してきたため、新築に対応しにくかった。既存住宅への普及はある程度進んだようであり、設置数に伸び悩みが見られ、ここ数年は目標件数に達せられていない。このため、24年度からは委託方式から補助金交付方式に改め、申請者である区民が自ら事業者を選定できることとし、新築にも対応しやすとした。				

### Ⅴ 一次評価(所管課長による評価)

1 成果の視点による評価(区民満足の向上・区の評価を高めた取り組み)	評価評語【 C 】						
(目標としている成果が上まっているか(指標の達成状況等)、区民にとってどのような成果があったか)							
平成23年度の達成率は、雨水浸透ます50%(15/30)、雨水貯留タンク290%(29/10)となっている。雨水浸透ます設置件数は、平成4年度から平成23年度までの累計で3,051基である。雨水貯留タンク設置件数は、平成14年度から平成23年度までの累計で91個である。							
2 効率性の視点による評価(効率化・事務改善への取り組み)	評価評語【 A 】						
受益者負担	不可	(一部)委託化	不可	指定管理者制度	不可	補助事業化	導入済
人件費削減	不可	コスト削減	不可				
(効率的に事務事業を実施しているか(コスト指標の評価)、効率化・事務改善にどのような成果があったか)							
浸透ますの設置について、区民が直接的な利益を認識できない事業であるため、本来、区民に一部負担を求めることは困難である。現在、浸透ますは、地域を指定し購入費用の2分の1(湧水保全地域は3分の2)補助、上限額200,000円である。貯留タンクは、区内地域指定なしで購入費用の2分の1、上限額22,000円である。							
3 有効性の視点による評価(手段の工夫・協働の取り組み)	評価評語【 A 】						
区が行う妥当性・必要性	あり	事業主体の役割分担	妥当	手段の工夫の余地	最適		
湧水保全地域を中心に雨水浸透ますの設置を推進し、湧水等の保全を図る。地下水の涵養を進め、健全な水循環を取り戻すためには不可欠な施策である。							
4 今後の展開方針、課題・懸案事項							
雨水の浸透と利用の施策は成果が明らかになるまで、長期間の継続的な取り組みが必要である。板橋区の水循環を再生、回復し、次世代に継承するために「板橋区地下水及び湧水を保全する条例」の適切な運用のもとに、湧水保全地域を核とする区民との協働、水循環の啓発、浸透ますの設置などを強力に推進する。また、実施方法については、適宜、改善していく。							
取り組みの対応期限	平成 28 年 3 月						

### Ⅵ 外部評価(行政評価委員会による評価)

外部評価	評価評語【 C 改善 】
(成果の視点)環境課は、区政の環境施策を統括する役割を担っている部署であることから、個人家屋にとどまらず、集合住宅や公共施設に対する雨水対策についても一元的に状況の把握に努めること。また、本事務事業の目的である雨水の有効活用について、活用内容、活用量など活用実態を把握し、成果を測定すること。【今後のあり方の視点】雨水浸透ますについては、年月の経過とともに、詰まりなどが原因となり機能不全を起していることも想定されることから、メンテナンスの必要性について積極的にPRを行うこと。	

### Ⅶ 二次評価(区の最終評価)

二次評価	評価評語【 C 改善 】
平成24年度から開始した補助金方式の狙いである新築家屋への対応については、成果と課題をしっかりと把握・整理し、次年度以降の展開に有効につなげていくこと。また、外部評価で指摘されている個人家屋以外にも広げた設置状況や雨水有効利用の実態については、施策を推進する立場として必要な視点であるので、把握に努めること。	

板橋区事務事業評価表(平成24年度)

No	166	事務事業名	ホタル飼育施設管理運営					
施策コード	33111	施策名	自然地の保全(環境)					
計画事業番号		ナンバーワン	安心・安全ナンバーワン		いたばし力UP	緑と環境力		
所管課係	資源環境部環境課管理係			記入者	飯田	電話	3579-2591	
予算科目コード(款・項・目・細目・細々目)				5-1-3-3-1				
I. 事務事業の概要		(開始年度: 平成 5 年度)						
区民(*1)に対し、緑と水辺の再生事業の一環として、環境指標昆虫であるホタルが生息できる環境をつくり、生育過程、成虫の飛翔等の公開を通じ、生きものとのふれあい体験の機会を提供や、ホタルを中心とした生態系や生物多様性の大切さを理解してもらうことで(*2)、意識啓発を行い環境意識向上を図る(*3)。								
(*1=「誰・何に対して(対象)」、*2=「どんな方法で(活動)」、*3=「どのようにしたいか(成果)」)								
II. 事務事業の目標と実績								
対象	①	区民	人	H22年度	H23年度		H24年度	H27年度
				実績	計画	実績	計画	目標
	②			536,778	535,759	535,812	535,687	525,000
事業指標	①	施設利用者(一般公開、特別公開)	人	31,897	40,000	30,998	40,000	40,000
	②	特別公開入場者数	人	16,088	18,000	14,964	18,000	20,000
	③	公開で「環境・自然が大切」と感じた人の割合	%	44.3	50.0	49.9	50.0	70.0
	④		人					
事務 量 及 び 所 要 経 費		正規職員数	人	2.8	1.8	1.8	1.8	財源名称
		再任用・再雇用職員	人	1.0	2.0	2.0	2.0	
		非常勤職員等	延日数	0	0	0	0	
	a	人件費換算額	千円	22,459	18,729	18,729	18,646	
	b	人件費を除く事業費	千円	35,818	35,477	31,053	28,557	
	c	総事業費(a+b)	千円	58,277	54,206	49,782	47,203	
	d	財 国・都支出金等	千円	0	0	0	0	
	e	財 利用者負担	千円	72	100	205	100	
	f	差引(一般財源(c-d-e))	千円	58,205	54,106	49,577	47,103	
	コスト 指標	来館者/事業経費	総経費(円)	1,825	1,353	1,599	1,178	
			区経費(円)	1,825	1,353	1,599	1,178	
	平成23年度事業量				平成23年度事業経費			
	(1)No.1ブラシ上							
(2)当初予算上※補正があった場合は、【補正後】として記入								
一般公開・・・通年で公開を実施(特別公開期間除く) 火～金曜日 13:00～16:00 夜間特別公開・・・公開時間19:30～21:30 6月～7月中旬(8日間) ゲンジボタルとヘイケボタル				◎ホタル飼育施設運営経費・・・【補正後 31,882千円】 需用費・・・12,080千円 役務費・・・226千円 委託料・・・16,768千円 使用料及び賃借料・・・1,812千円 工事請負費・・・996千円				
(3)実績								
一般公開・・・通年で公開を実施 15,810名 夜間特別公開を実施 14,964名 6月17～19日 ゲンジボタル 7月16～18日 ヘイケボタル その他「事前公開」「障がい・高齢者招待」「講演会」				◎ホタル飼育施設運営経費・・・【31,053千円】 需用費・・・11,275千円(光熱水費、用土、ろ材等消耗品等) 役務費・・・209千円 委託料・・・16,762千円(管理業務等) 使用料及び賃借料・・・1,812千円(建物リース等) 工事請負費・・・995千円(施設補修費)				
進捗状況・所管課の評価・今後の予定						( 月 日現在)		

No	166	事務事業名	ホテル飼育施設管理運営
----	-----	-------	-------------

事業量・経費増減の理由等(平成23年度実績と平成24年度予算との比較)  
 平成23年度総事業費実績・・・49,782千円、平成24年度計画・・・47,203千円で、2,579千円の減  
 減の主な要因・・・用土、ろ材他消耗品等△4,539千円。平成24年度については、ろ材購入の必要が計画以上少なくなったため。

**Ⅲ 事務事業を取り巻く環境**

区民意見等の状況(アンケート調査や個別要望等)、類似・関連事業や他自治体との比較など  
 夜間特別公開実施時のアンケート結果では、入場者の43.5%が区内在住者で都内(板橋以外)37%他県19.5%となっている。入場者の91.1%が「大変よかった」と満足度は高く、92.3%がまた次回見たいとの感想を寄せている。他自治体との比較では、全国でも数少ない貴重な施設となっている。

**Ⅳ 前年度の二次評価結果への対応状況**

1 前年度の二次評価内容	評価評語	改善	対応状況	一部対応済
施設の管理運営について、個人の技術等に依存しない、組織的な対応策を具体的に検討すること。				
2 前年9月(当初予算要求時)時点での、二次評価結果への対応状況				
現在、資源環境部では、環境問題への取組みは「啓発期」から「実践期」へと移行したと捉え、エコポリスセンターの指定管理化、さらには部内の組織改正等、組織強化に取り組んでいる。今後、これをうけ、ホテル施設についても組織的な対応策を検討することとしている。				
3 現時点での、前年度二次評価結果への対応状況や成果向上のために取り組んできたこと				
施設の管理運営については、個人の技術等に依存せず実施させていくために、組織的な対応策等について検討している。しかしながら、ホテル累代継承といった生物学的特殊技術は、新たに専門職採用と技術取得に数年を要するため、組織的対応は難しい。経営革新計画【ローリング】にて、将来の事業運営スキームについて、他施設への移転の可能性も含めて検討を開始。				

**Ⅴ 一次評価(所管課長による評価)**

1 成果の視点による評価(区民満足の向上・区の評価を高めた取り組み)		評価評語【 A 】	
(目標としている成果が上まっているか(指標の達成状況等)、区民にとってどのような成果があったか)			
夜間特別公開は、1日で2,000人を越える日があるなど、全体で10,000人を越える入場者があった。ホテルの飛翔する光の「癒し効果」とともに、「自然・環境を守る大切さ」「自然に触れ合う充実感」などがアンケートの感想として今年度も昨年と同様に報告されている。また、平成23年度から改善を行ったホテルの絵ハガキの販売については平成22年度と比較して、133千円の歳入増額となった。			
2 効率性の視点による評価(効率化・事務改善への取り組み)		評価評語【 B 】	
受益者負担	見直し	(一部)委託化	導入済
人件費削減	不可	コスト削減	不可
指定管理者制度 不可 補助事業化 不可			
(効率的に事務事業を実施しているか(コスト指標の評価)、効率化・事務改善にどのような成果があったか)			
消耗品等の経費を圧縮し、24年度は事業費の削減を図った。			
3 有効性の視点による評価(手段の工夫・協働の取り組み)		評価評語【 A 】	
区が行う妥当性・必要性	あり	事業主体の役割分担	妥当
手段の工夫の余地		最適	
近年その機会が失われている生きもののふれあいや、生態環境、生物多様性の大切さを体験できる施設として有効である。特別公開時などには、地域住民やボランティア等と協働した運営を実践している。			
4 今後の展開方針、課題・懸案事項			
今後の事業運営スキームについて、早急に検討を進める必要がある。方向性として、これまで区が行ってきた事業を、NPO法人等に引き継がないか検討する。また、現在のホテル生態環境館は、施設の老朽化が進んでいることから他施設への移転も含めて検討する。			
取り組みの対応期限		平成 28 年 3 月	

**Ⅵ 外部評価(行政評価委員会による評価)** 評価評語【 休廃止 】

【今後のあり方の視点】施設の室内通路等が乱雑な状態で、予告もなく休館となる場合も散見され、公開を前提とした施設の体を成しているとは言い難い。ホテルの夕べでは、多数のボランティアや地域住民の協力もあり、かつ施設を評価している区民も多く存在することから、公共施設としての自覚を持ち、早急に改善を進めること。また、ホテルの生態に関する研究成果に対しては一定の評価ができるが、そもそも、区として研究のための施設が必要であるか疑問である。中長期的な視点に立てば、施設の老朽化や属人的な能力に依存した施設運営がなされていることから、建て替えを契機に廃止を検討されたい。

**Ⅶ 二次評価(区最終評価)** 評価評語【 休廃止 】

施策実現手段としての必要性の観点と、厳しい財政状況及び施設の老朽化に鑑み、廃止の方向を含めた検討を進めること。開設中にある外部評価での指摘を踏まえ、公開施設にふさわしい事業運営に心がけること。

板橋区事務事業評価表(平成24年度)

No	167	事務事業名	熱帯環境植物館運営					
施策コード	33111	施策名	自然地の保全(環境)					
計画事業番号		ナンバーワン	安心・安全ナンバーワン		いたばし力UP	緑と環境力		
所管課係	資源環境部環境課管理係			記入者	飯田	電話	3579-2591	
予算科目コード(款・項・目・細目・細々目)	5-1-3-2-1							
I 事務事業の概要		(開始年度: 平成 6 年度)						
区民(*1)に対し、植物・魚類の宝庫である東南アジアの熱帯雨林を温室内で再現し、その自然に満ちた生態の展示・公開、企画展等関連イベントの実施等を通して、緑と水など自然を体験する機会を提供し(*2)、地球環境問題に対する意識啓発を行っている(*3)。								
(*1=「誰・何に対して(対象)」、*2=「どんな方法で(活動)」、*3=「どのようにしたいか(成果)」)								
II 事務事業の目標と実績								
対象	①	区民	単位	H22年度	H23年度		H24年度	H27年度
				実績	計画	実績	計画	目標
	②		人	536,778	535,759	525,812	525,687	525,000
事業指標	①	入館者数	点	80,150	90,000	88,918	90,000	100,000
	②	企画展示実施数	%	11	11	11	11	11
	③	各種講習会参加者	%	1,762	1,800	2,262	1,800	1,800
	④		人					
事務 量 及 び 所 要 経 費		正規職員数	人	0.8	0.8	0.8	0.8	財源名称
		再任用・再雇用職員	人	0.0	0.0	0.0	0.0	
		非常勤職員等	延日数	0	0	0	0	
	a	人件費換算額	千円	5,459	5,405	5,405	5,368	
	b	人件費を除く事業費	千円	135,649	141,675	139,961	133,497	
	c	総事業費(a+b)	千円	141,108	147,080	145,366	138,865	
	d	財 国・都支出金等	千円	0	0	0	0	
	e	財 利用者負担	千円	0	0	0	0	
		差引一般財源(c=d-a)	千円	0	0	0	0	
		コスト指標	来館者/事業経費	総経費(円)	1,761	1,634	1,635	1,543
			区経費(円)	1,761	1,634	1,635	1,543	
平成23年度事業量				平成23年度事業経費				
(1)No.1プラン上								
(2)当初予算上※補正があった場合は、【補正後】として記入								
指定管理の実施 中央監視装置の借上げ				委託料……【補正後】130,636千円 使用料及び賃借料……3,863千円 工事請負費……【補正後】5,849千円				
(3)実績								
指定管理の実施:4/1~3/31 中央監視装置の借上げの実施:4/1~3/31				委託料……130,250千円(指定管理料) 使用料及び賃借料……3,862千円(中央監視装置賃借) 工事請負費……5,849千円(防水改修工事)				
進捗状況・所管課の評価・今後の予定						( 月 日現在)		

No	167	事務事業名	熱帯環境植物館運営
----	-----	-------	-----------

事業量・経費増減の理由等(平成22年度実績と平成23年度予算との比較)  
 平成23年度実績・・・139,961千円、平成24年度予算・・・133,497千円で、6,464千円の減  
 減の要因・・・平成23年 防水工事費

**Ⅲ 事務事業を取り巻く環境**

区民意見等の状況(アンケート調査や個別要望等)、類似・関連事業や他自治体との比較など  
 アンケート調査(23年11月実施)では、区内が70.9%、来館初めてが22.3%で、4回目以上が多く全体の57.4%となっている。水族館・温室・企画展示とサービス全般については86.4%が「大変よい」と「よい」で満足度は高かった。

**Ⅳ 前年度の二次評価結果への対応状況**

1 前年度の二次評価内容	評価評語	継続	対応状況	一部対応済
地球環境問題に関する意識啓発について、指定管理者だけでなく、区としても積極的に取り組むこと。また、事業計画書の内容の履行確認を徹底し、管理運営の質の向上と、適切な指定管理料について、点検・評価すること。				
2 前年9月(当初予算要求時)時点での、二次評価結果への対応状況				
熱帯環境植物館が実施する事業を、広報等で区民に周知した。 また、その他区の環境施策の公報に際しても地球環境問題に関する意識啓発に努めている。 指定管理者の事業計画書の履行確認の徹底を図った。				
3 現時点での、前年度二次評価結果への対応状況や成果向上のために取り組んできたこと				
事業計画書の履行確認を適時実施するとともに、次年度の事業計画について指定管理者と協議し、事業内容や意識啓発方法の質の向上を図った。 指定管理者の管理運営に関する点検・評価について、24年度はモニタリング調査を実施する予定である。				

**Ⅴ 一次評価(所管課長による評価)**

1 成果の視点による評価(区民満足の向上・区の評価を高めた取り組み)	評価評語【 A 】																
(目標としている成果が上がっているか(指標の達成状況等)、区民にとってどのような成果があったか) 平成17年度から指定管理者制度を導入した。来館者数は、ほぼ順調に伸びてきており、23年度は、88,918人と前年比11%の増となった。また、講座参加者についても前年比と比べ28.4%の増となった。																	
2 効率性の視点による評価(効率化・事務改善への取り組み)	評価評語【 A 】																
<table border="1"> <tr> <td>受益者負担</td> <td>適正</td> <td>(一部)委託化</td> <td>導入済</td> <td>指定管理者制度</td> <td>導入済</td> <td>補助事業化</td> <td>不可</td> </tr> <tr> <td>人件費削減</td> <td>不可</td> <td>コスト削減</td> <td>不可</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	受益者負担	適正	(一部)委託化	導入済	指定管理者制度	導入済	補助事業化	不可	人件費削減	不可	コスト削減	不可					
受益者負担	適正	(一部)委託化	導入済	指定管理者制度	導入済	補助事業化	不可										
人件費削減	不可	コスト削減	不可														
(効率的に事務事業を実施しているか(コスト指標の評価)、効率化・事務改善にどのような成果があったか) 指定管理者制度を導入し、来館者数・講座参加者数が順調に増えるなど導入効果があった。バラエティに富み、季節に合わせた企画展の開催、こまめな植栽・魚類の管理など、多面に渡り評価が高く、運営面で改善が図られてきている。																	
3 有効性の視点による評価(手段の工夫・協働の取り組み)	評価評語【 A 】																
<table border="1"> <tr> <td>区が行う妥当性・必要性</td> <td>なし</td> <td>事業主体の役割分担</td> <td>妥当</td> <td>手段の工夫の余地</td> <td>最適</td> </tr> </table>	区が行う妥当性・必要性	なし	事業主体の役割分担	妥当	手段の工夫の余地	最適											
区が行う妥当性・必要性	なし	事業主体の役割分担	妥当	手段の工夫の余地	最適												
区民には、人気の施設でもあり、今後もこの分野で多くのノウハウを有する企業等による指定管理施設として運用するのが望ましい。また、隣接の清掃工場の余熱を有効利用している省エネルギー施設であるので、今後もその運用を維持し、広く広報したい。																	
4 今後の展開方針、課題・懸案事項																	
初期の指定管理導入から7年が経過し、平成22年度に2回目の指定管理者を導入し、平成23年度は同指定管理者による2年目の運営になる。平成23年度は平成22年度に比べ来館者を増加することができた。植物・魚類等一層の魅力的な展示、多彩な企画展・イベントの開催など、今後もさらなるサービス向上に取り組んでいくことを課題としている。																	
取り組みの対応期限	平成 25 年 3 月																

**Ⅵ 外部評価(行政評価委員会による評価)**

評価評語 【 継続 】  
 【成果の視点】指定管理者制度の導入による入場者数の増加は評価できる。誰もが楽しみながら学べるよう、さらなる入場者の増加を図るイベントやPRを行うこと。【今後のあり方の視点】施設の老朽化(ペンキの剥げなど)が来場者の目に触れるところで目立ってきており、応急的な対策が必要である。

**Ⅶ 二次評価(区の最終評価)**

評価評語 【 改善 】  
 充実したイベントやPR効果により来館者数・講座参加者数が順調に増えるなど、指定管理者制度を導入した効果が認められる事務事業であるが、維持管理経費も多額であり、現状のままでは施設の運営を続けていく限り、厳しい財政状況のもとでは廃止も視野に入れざるを得なくなる。そのような事態を回避するためには、環境立区いたばしの第二ステージ(実践期)における環境戦略を展開する旗艦としての位置づけを明確にし、新たな施策への展開も含め事業のあり方について検討を進めること。指定管理業務に対しては、引き続き計画書内容の履行確認やモニタリングを徹底し、効率的な運営とともに業務の質の向上が図られるよう努めること。